

はじめに(温暖化対策の必要性と目指すところ)

- 地球沸騰化(国連事務総長記者会見)
- 世界をリードするサステナブルシティ(『Next Horizon Sustainable City』)

2

地球沸騰化(国連事務総長記者会見)

➤ 2023年7月、アントニオ・グテーレス国連事務総長は、2023年7月が人類の歴史において観測史上最も暑い月となる見通しを受け、気候変動の影響が危機的な状況であることを伝えるため、記者会見の中で「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と発言しました。

- 人類は猛暑による窮地に立たされています。
- 気候変動とは、今ここにあり、まさに恐怖です。そしてこれは、始まりにすぎません。
- 地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来したのです。
- 世界全体の気温上昇を1.5℃に抑え、気候変動の最悪の事態を回避することは、まだ可能です。
- しかしそれは、劇的かつ即時の気候行動を講じてこそです。
- いくつかの前進は見られます。再生可能エネルギーの力強い展開、海運などの部門での前向きな一歩。しかしいずれも、進展が不十分で、スピードが不足しています。
- 加速度的に上昇する気温に対しては、行動を加速させる必要があります。
- 指導者たち、とりわけ世界の排出量の80%に責任を負うG20諸国は、気候行動と気候正義を強化しなければなりません。



アントニオ・グテーレス国連事務総長(2017年～)

出典:国際連合広報センター

3

世界をリードするサステナブルシティ(『Next Horizon Sustainable City』)

- 2026年1月、北九州市は、持続可能な都市(サステナブルシティ)の新たな方向性として、「Next Horizon Sustainable City」(ネクストホライズン・サステナブルシティ)という新たな都市像を策定しました。これは、都市を単なる課題が生まれる「場」ではなく、世界の課題解決を牽引する「変革の主体(Transformative Agent)」として位置づけるもので、世界的にも先駆的かつ独自性の高い概念です。
- 北九州市は、かつて深刻な公害を経験しながらも、市民・企業・行政が一体となってそれを克服し、その過程で得た知見と経験を、国内外の都市が抱える課題解決に生かしてきました。こうした利他的かつ再生的な歴史を持つ都市として、今後、世界が直面する複雑化・高度化する課題の解決に貢献するため、この都市像を国内外へ広く発信していきます。



◆ 新たな都市像を象徴する4つのキーワード

| | |
|--|---|
| <曼荼羅ネットワーク> 多様な主体が有機的につながる都市 | <利他的な都市> 互いを思いやる力を持つ都市 |
| <再生的な都市> 継続的に自らを再生する都市 | <世界の変革主体> 世界の変革を自らつくりだす都市 |